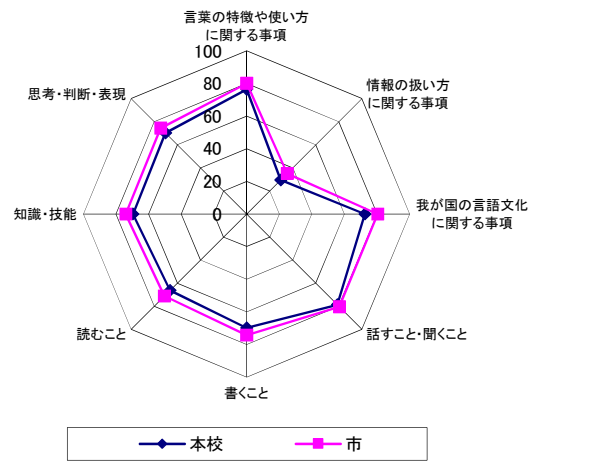


宇都宮市立若松原中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使いに関する事項	76.4	80.0	76.5
	情報の扱い方に関する事項	29.6	35.2	29.3
	我が国の言語文化に関する事項	72.5	80.4	63.1
	話すこと・聞くこと	78.7	80.4	77.7
	書くこと	69.9	74.3	62.9
	読むこと	66.4	71.2	65.8
観点別	知識・技能	69.6	74.1	68.4
	思考・判断・表現	70.2	74.3	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

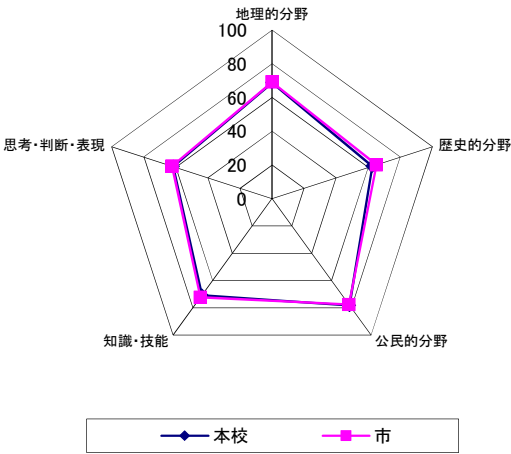
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	・平均正答率は市平均を下回るが、参考値の正答率とはほぼ同程度であった。 ○第3学年までに学習した漢字においては、正答率100%や市の正答率を上回る結果が見られた。 ●小学校で学習した漢字の書き取りにおいては、市の正答率より下回っており、課題が見られる。	・漢字の読み書きにおける基礎・基本の定着を図るため、小学校の漢字を含めた漢字テストの位置付けを継続していく。 ・日常的に使う漢字においても、正しい漢字を書き添えるよう、随時、添削やアドバイスをを行い、意識を高めていく。 ・個人の、漢字自主学習を勧める。
情報の扱い方に関する事項	・平均正答率は市平均を下回るものの、参考値の正答率を上回っている。 ○「情報と情報との関係について理解し、自分の考えがわかりやすく伝える文章にするように工夫する」の正答率は市の平均と、ほぼ同程度であった。 ●「情報と情報との関係について理解し、論理の展開の仕方を捉える」の正答率は、市よりも7.2ポイント低い。	・授業以外でも新聞・雑誌のニュースや投稿欄などから、生徒に身近な情報となる文章を得て紹介し、意見を述べ合ったり、書いたりする機会を増やしていくことで、文章に慣れさせていく。
我が国の言語文化に関する事項	・平均正答率は市平均を下回るものの、参考値の正答率を9.4ポイント上回った。 ○「現代語訳を手がかりに古典を読む」の正答率は、ほぼ市の平均と同程度であった。 ●「歴史的仮名遣いについて理解している」の正答率は市よりも12.8ポイント大きく下回った。	・歴史的仮名遣いに関しては、古語の書き換え問題や古典の文章の音読活動を通して、基礎・基本の復習に力を入れ、古典の理解に繋がるように指導していく。
話すこと・聞くこと	・平均正答率は市と参考値の正答率ともにほぼ同程度であった。 ○「進行の仕方を工夫して話し合っている」では、市よりも2、9ポイント上回っている。 ●「自分の考えを明確にし、論理の展開を考えて話している」は、市よりも6、8ポイント下回った。	・授業での「話し合い活動」を充実させていく。相手に分かりやすく伝えるための手順や、伝えたいことの要点や要旨のまとめ方を習得し、説得力のある話し方や表現の仕方を養っていく。
書くこと	・平均正答率は市平均を下回るものの、参考値の正答率を7、0ポイント上回っている。 ○「多様な読み手を説得できるように文章の構成を工夫している」と「自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫している」とともに正答率が高い。 ●「自分の考えを明確にして書いている」の正答率に課題が見られる。	・条件作文問題のジャンルを増やし、定めた時間内で指定された内容と字数を満たして書き上げる活動を授業に取り入れて練習させていく。 ・根拠を明確にして、意見を述べる機会を増やすなど、論理構成を意識した作文を書かせる。
読むこと	・平均正答率は市平均を下回るものの、参考値の正答率を0.6ポイント上回っている。 ○「文学的な文章の内容を読み取る」の正答率が高い傾向が見られた。 ●「文章の表現の仕方について評価している」の正答率に課題が見られる。	・説明的文章においては、論理の展開や構成に着目し、筆者の主張や考え方を読み取る力を養っていくよう指導を継続していく。 ・文学的文章においては、情景描写や登場人物の言動に触れながら、人物の心情や人物像を読み取っていく力を身に付けさせていく。 ・問題文の解説を、随時丁寧に行っていく。 ・複数の文章を比較しながら読ませるなど、表現の仕方の違いを意識するような指導方法を増やす。

宇都宮市立若松原中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	68.8	69.2	61.5
	歴史的分野	62.5	65.1	59.1
	公民的分野	78.3	77.6	71.6
観点別	知識・技能	70.8	72.2	66.8
	思考・判断・表現	61.6	62.3	53.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

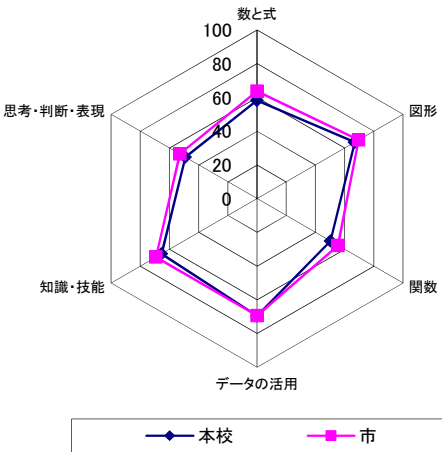
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	・平均正答率は、市の平均値を下回るものの、参考値の正答率を上回る結果となった。 ○日本の諸地域の問題では、4問中3問で市の平均を上回った。 ●日本の諸地域、資料を参考に九州地方の産業の特色を判断する選択問題についての正答率は、市平均、参考値いずれとの比較でも下回る結果となった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・資料の読み取りに関しては、今後も複数の資料を比較しながら読み取らせ、考察させる活動を継続して行っていく。 ・知識・理解の観点については、授業ごと、単元ごとに振り返りを行わせ、復習に重点を置いて知識の定着を図っていく。
歴史的分野	・平均正答率は、3つの領域の中で最も低い。市の平均値を下回るものの、参考値の正答率を上回る結果となった。 ○江戸時代における鎖国下での政策に関する資料活用についての問題は、校内平均正答率が90%を上回り、市の平均正答率も上回った。 ●古代・近世ともに資料を読み取り、適切に表現する記述問題で、全体的に平均正答率が低い。	・既習事項の理解が不十分であったと考えられる。特に江戸時代の内容については、事象を関連付けて指導し、記述させる活動を通して、知識の定着を図っていく。 ・複数の資料からの読み取りを苦手としている生徒が多い。記述問題では、資料の着眼点を明確にし、資料を活用して表現する力の育成に力を入れる。
公民的分野	・平均正答率は3つの領域の中で一番高い。市の平均値と参考値の正答率をともに上回る結果となった。 ○私たちの生活と現代社会についての問題は平均正答率が80%を上回った。 ●憲法改正の手続きについての問題では、市の平均正答率を大きく下回った。	・今後も、現代社会を大観させながら、日本の政治・経済について考察させる学習活動を継続していく。特に近年、国会や選挙において注目度の高い「憲法改正」については、私たちの生活に大きく密接する事柄でもあることから重点的に学習に取り組みせていく。

宇都宮市立若松原中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	58.2	63.7	61.5
	図形	66.9	69.6	61.1
	関数	50.3	55.4	43.5
	データの活用	69.5	69.3	64.2
観点別	知識・技能	65.4	69.2	65.3
	思考・判断・表現	49.1	52.9	42.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

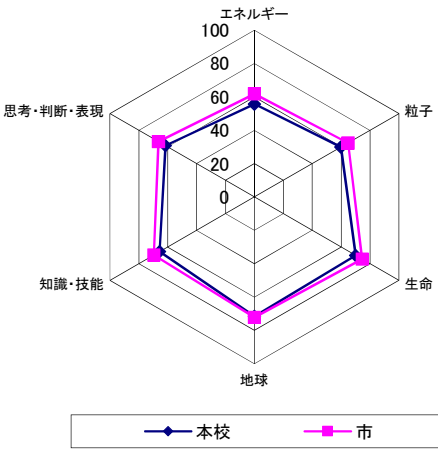
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	・平均正答率は市平均、参考値とともに下回っている。 ○正負の数の計算などの基本的な計算については、市平均と同程度の正答率になっている。 ●平方根の単元に課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・正負の数や式の計算については、引き続き繰り返し学習をさせたり、T2や習熟度別学習を活用することで知識の定着を図る。 ・平方根の単元については、T2の活用や自主学習用のプリントを用意し学習内容の定着を図る。
図形	・平均正答率は市平均を下回るものの、参考値よりも5.8ポイント高い。 ○作図や移動に関する問題については、市平均と同程度の正答率になっている。 ●証明の単元に課題が見られる。	・授業においてICTを活用したり、生徒自身が操作できる教材を用いたりして学習内容の定着を図る。 ・証明の単元は、必要な情報を問題文や図から読み取るために、図形の性質や特徴などを授業で丁寧に指導し、その情報を図形に書き込んでいくように指導する。
関数	・平均正答率は市平均を下回るものの、参考値よりも6.8ポイント高い。 ●関数に関しては全ての問題で市平均よりも3ポイント以上下回っている。	・関数の表、式、グラフのそれぞれの関係について、相関関係を丁寧に指導する。 ・問題とグラフの関係性を意識させる。 ・授業で発展的な内容を取り扱う際に、問題解決の方法を生徒同士で説明させるなどの機会を増やす。
データの活用	・平均正答率は市平均と同程度であるものの、参考値よりも5.3ポイント高い。 ○データの分布の傾向を読み取る問題は、市平均と同程度の正答率になっている。 ●確率の単元と、データの分布の傾向を読み取り、それを説明する問題に関しては、市平均を大きく下回っている。	・さらに力を伸ばすために、自分たちで資料をまとめさせ、資料の傾向を説明させるような学習を取り入れる。 ・確率の単元は、樹形図などを活用し、問題を把握することができるように指導する。

宇都宮市立若松原中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	55.7	61.8	60.6
	粒子	59.8	64.8	54.0
	生命	70.1	74.5	66.6
	地球	71.6	72.1	63.0
観点別	知識・技能	65.6	69.6	63.4
	思考・判断・表現	61.6	66.5	57.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

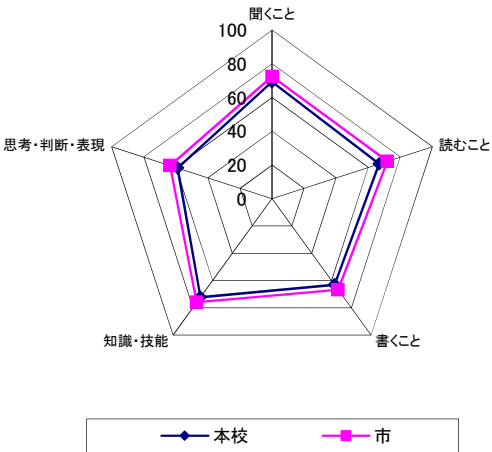
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	・正答率は、市や参考値を5ポイント程度下回る。 ●鏡やガラスを使った実験で、光の反射や屈折の知識を応用し、光がどのように進むのかを考えることが苦手である。 ●電流が作る磁界の向きや力の向きを考えることが苦手である。 ○力学的エネルギー保存の法則を理解し、運動する物体のもつ、位置エネルギーと運動エネルギーの移り変わりを理解している。	・光の進み方の作図を行う機会を多く取り入れる。 ・フレミングの左手の法則などを用いて、電流の作る磁界や力の向きを覚えさせるため、繰り返し指導を行うなど工夫を行う。
粒子	・正答率は、参考値を5.8ポイント上回った。 ●気体の発生方法について、知識を身に付ける必要がある。 ○気体の性質や特徴を捉えることができています。 ●化学変化を化学反応式で表すことが苦手である。 ●イオンのでき方を説明したり、水溶液中のイオンのようすをイメージしたりすることが苦手である。	・気体発生の実験を引き続き行い、結果や考察の共有に重点を置く。 ・目に見えない原子やイオンなどのつくりやでき方などを、模型やシミュレーションを使って視覚的に理解させる活動を授業に取り入れる。
生命	・正答率は、参考値を3.5ポイント上回った。 ○植物の分類についての知識はおおむね身に付いている。 ●体内での血液の循環を血液中の成分と結び付けて理解する必要がある。 ○植物の染色体の観察については、観察手順も含めてしっかりと理解している。	・心臓のつくりと血液の循環を、酸素と二酸化炭素の受け渡しと関連付けて理解させる。(図や模型、ポンプなどを活用して視覚的に理解させる活動を取り入れる。)
地球	・本市平均とほぼ同等の得点率である。 ○表やグラフから直接的に読み取ることができる問題の正答率が高い。 ●資料から結果を読み取り、そこから考察、計算をして導き出す問題の正答率が低い。 ●前線のでき方、その周辺の雲の様子などについて十分に理解できていない。	・距離、時間、速さの計算の復習の徹底を行い、地震の計算演習を多く取り入れる。 ・天気の変化の仕組みを、身近な事象と関連付けて理解させる。

宇都宮市立若松原中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	69.4	72.5	70.5
	読むこと	66.8	71.9	66.9
	書くこと	63.2	66.8	59.7
観点別	知識・技能	72.2	76.0	73.9
	思考・判断・表現	58.9	63.6	55.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	・「聞くこと」の正答率は69.4%で、参考値との比較で-1.1ポイント下回った。 ○市の平均を下回るものの、ALTとの学習が効果を上げ、参考値を1.1ポイント上回った。 ●リスニング問題において「対話文の応答」の正答率が低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・授業での英語の使用率を上げて、英語の音声に慣れるようにする。 ・授業の中で、英語を聞く時に、音のつながりも意識しながら、聞き取りのポイントを示して、理解を深めていく。
読むこと	・「読むこと」の正答率は66.1%で、参考値との比較で4.3ポイント下回った。 ○「語形・語法の知識・理解」は比較的正答率が高く、文法が身に付いてきている。 ●特に「長文の読み取り」の問題で正答率が低い。	・予習や復習を徹底させ、自分で本文の内容を読解していく力をつけていく。 ・授業の中で、T-FやQ&Aなどの問題、本文穴埋め問題に取り組ませ、理解できるように工夫していく。 ・語彙力を付けることで、理解につなげていく。
書くこと	・平均正答率は、他の領域より低く、最も苦手な領域と言える。市の平均を下回っている。 ○「単語の並べかえによる英作文」は、比較的正答率が高く、語順が身に付いてきている。 ●「3文以上の英作文」の正答率が低く、自分のことについて正しい単語や文法で表現することを苦手としている生徒が多い。	・授業の中でも自分の考えを英語で伝えたり、書いたりする活動を多く取り入れる。 ・単語テストを定期的に行い、語彙力を付けていく。 ・ティームティーチングで、書くことについて個別に指導する。

宇都宮市立若松原中学校

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
ICT機器の利点を生かし、主体的、対話的で深い学びを実現するための授業改善を図る。	授業公開ウィークを実施するなど、校内研修の機会を設け、ICT機器を活用した授業を、互いに公開、参観し合うことで、ICT機器の効果的な活用を促進し、職員の授業力向上を図る。	「調べたことをパソコンを使ってまとめることができる」の肯定割合は、3年で90.4%(市との差+4.2)と高い。また、「教職員は分かりやすい授業を展開している」の教職員評価は100%である。
学習意欲の向上を図るための教材、教具の工夫改善	ICT機器を積極的に活用し、調べ学習や、学び合いの機会を増やすことで、子供の学習意欲を高めつつ、基礎・基本の定着と記述等に粘り強く取り組む態度を育む。	「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」の肯定割合は、1年67.7%(市との差-7.1)2年67.6%(市との差-3.8)と低いが、3年では85.4%(市との差+5.1)で、学年が上がるに従い、取組が向上している。 学力調査の結果では、知識・技能の定着が課題である。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方針

- ・知識・技能を確実に習得させるため「わかる授業」を展開する。
- ・ICT機器を効果的に活用し、主体的・対話的で深い学びを実現させる授業改善を進める。
- ・AI型学習ドリルを活用した「鍛錬タイム」を実施し、一人一人に適した学習の実現と学力の定着を図る。
- ・自主学習ノートを使い、生徒会活動等と連携し家庭学習の習慣化を図る。
- ・保護者会や個人面談の際に、学びを支えるの規則的な生活や過ごし方について協力を依頼する。